

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和7年4月15日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～6学年の全児童

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

品川区立中延小学校

品川区立中延小学校

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【国語】

(1) 定着状況についての概要

2, 4, 5, 6年生は目標値と同程度の結果となったが、3年生のみ基礎部分が大幅に下回った。全体として、「書くこと」の分野が向上しているが、漢字の書き取りに共通した課題がある。また、3年生以上は、文法や漢字の使い方にも課題がある。「読むこと」に関しても、正しく読むこと、文や段落の関係を読み取ることに課題がみられた。

(2) 学年ごとの分析

2年	具体的な課題	原因として考えられること
	主に「読むこと」の活用問題において、正答率は高いが、長い「ものがたりを読みとり」に課題がある。問題文の正しい読み取りや理解ができていない。	語彙や経験が少ないために、自力で正しく読むことが難しい。 問題の形式に慣れていない。問題の意味が分からない。選択肢の文を正しく読み取れていない。
	課題解決のための方策	教材と出会うときに一人で読む時間を確保する。自分の考えをまとめる時間を十分に確保していく。
3年	具体的な課題	原因として考えられること
	主に「かん字を読む」や「ことばの学しゅう」などの言語能力、長い「ものがたりを読みとり」・「文しょうを書く」に課題が見られる。	基礎学力をさらに定着させる時間が必要。物語のおおまかな内容をとらえるのが難しい。漢字の反復練習の時間や語彙がまだ少ない。
	課題解決のための方策	語彙力を向上させるため、文章・指示したこと・伝えたいことの話型を用意して、他教科でも活用しながら語彙力を高める。文章理解のために、必要に応じて読み返す習慣がつくようにする
4年	具体的な課題	原因として考えられること
	主に「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の項目ともに、順序よく読み理解したことを生かして問題に答えることに課題がある。	文章の流れを大まかにつかんで読むという力が積みあがっていない。また、文章や話の中で大事なところは何かを意識して読めていない。
	課題解決のための方策	4年生でメモの取り方の学習をしたため、定着できるように、先生の話のメモを取り、情報を整理する練習していく。100マス作文を書く練習をする。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	主に「漢字を書く」と「文章を書く」課題ある。既習漢字を正しく書けていない。作文は、「指定された長さ」で書けない傾向にある。	反復練習に取り組む時間が不十分である。作文を書く際に必要な自身の経験や知識の少なさがある。
	課題解決のための方策	取り組みやすい社会資料の読み取りと自分の考えを書き表す活動を取り入れ、ノートの掲示をして意欲づけにつなげていく。 新出漢字を使った文づくりや反復練習をする。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	主に、「文章中で文脈に沿った漢字を適切に使う」こと「正しい漢字を書くこと」などが大きな課題といえる。また「書くこと」に課題が見られ、無回答も多い。	既習の漢字が身につけておらず、活用ができない。時間内に書く活動や、自身の考えを文章として表現する経験が少ない。
	課題解決のための方策	既習の漢字を繰り返し書く活動を行うことで定着を図る。100マス作文を行い、自分の考えを表現する時間を設けることで、書く機会を増やしていく。また、話すことを通して、自分の考えをもち書くことへとつなげる。

(3) 次年度の数値目標

全学年が平均正答率になることを目標にする。

品川区立中延小学校

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【社会】

(1) 定着状況についての概要

4年生は、わずか目標値に届かなかった。観点別の定着では基礎と活用が目標値を下回る結果となった。5・6年生は、今年度は目標値と比較し、基礎と活用は上回る結果となった。一方で、5年生は区平均と比較すると、基礎平均は大差ないものの、活用においては低い結果になっている。6年生は、区平均と比較すると基礎が低い一方で区平均も全国平均も上回る結果となった。

(2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題	原因として考えられること
	目標値・平均正答率・全国平均と比較し、全体的に下回っており、特に地図記号などの知識や資料からの読み取りに苦手意識がある。	社会科全体に苦手意識があり、基礎・基本の定着が身に付いていないことが大きな要因である。
	課題解決のための方策	<p>【実物教材や地域人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に自分の生活との関係性をもたせるために、見学やゲストティーチャーの活用、実物に触れる体験をどの単元にも効果的に位置付ける。また、授業の3分間を使って地図記号クイズや23区クイズなどをして知識の定着を図る。 <p>【資料読み取りの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期までに再度資料の確実な読み取りの方法を獲得させ、どの単元でも児童が切実性をもって学習に取り組める資料の提示方法を工夫して行うようにする。また、繰り返し発問を行い、考えを深める場面を必ず設けるようにする。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	目標値を上回った一方で、平均正答率・全国平均と比較すると下回っており、「くらしを支える水」「ごみの処理と利用」「先人の働き」「特色ある地域の様子」などの「資料読み取り」「社会科の用語獲得」に課題がある。	「くらしを支える水」も「ごみの処理と利用」の誤答には資料に添付された写真だけで判断をして追記された文章を読んでいないことも課題として挙げられる。「特色ある地域の様子」では、「伝統」という言葉の重みを理解せず、自分の判断で答えてしまっている。
	課題解決のための方策	<p>【複数の資料活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る際に、写真資料だけでなく文章資料と一緒に考えさせる活動を設定する。そうすることで、写真資料からは判断できない根拠を文章から読み取らなければならない意識をもつことができる。 <p>【社会科の用語獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元学習において、知識として学んだ用語は必ず使うように声を掛ける。具体的には、発言・振り返り・日常生活で意識して使うようにする。今回の「伝統」のような用語は様々な場面で活用することができるのでその都度、用語を活用しながら言葉の重みも理解できるようにする。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、領域別に見ると、「世界の中の国土」と「日本の食料生産」に課題がある。	「世界の中の国土」では、世界の国々や大陸の「位置と名称」を地球儀から読み取ることに少し課題がある。また、社会的な用語の獲得が課題である。
	課題解決のための方策	<p>【国土の位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の5分間を利用して「国家や国旗」など、年間を通した復習時間を設け、定着を図る。 <p>【用語の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元学習において、知識として学んだ用語は必ず使うように声を掛ける。具体的には、発言・振り返り・日常生活で意識して使うようにする。今回の「代掻き」のような用語は稲作体験を並列して学習していることから、今自分たちが行っている学習は何なのか継続して理解する必要がある。

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値を目指す。4年生から6年生は、平均正答率より上を目指す。

品川区立中延小学校

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【算数】

(1) 定着状況についての概要

全学年算数を見ると、目標値と比較して上回っているのは、2，4，5年生であった。3，6年生においては、目標値にわずか届かなかった。

2，3，4年生においては、基礎的な知識を活用した問題の平均正答率が区平均値よりも上回った。5，6年生においては、基礎的な問題において、目標値を上回っている。

2年	具体的な課題		原因として考えられること
	「ひき算」 「文章題の読み取り」		10のまとまりとして数を捉え、計算を順序立てて考えることが難しい。長文の問題を読み、正しく理解することに課題がある。
	課題解決のための方策	単元ごとに、計算の仕方の表現に慣れさせ、順序良く考えさせる。問題を落ち着いて正しく読むことを習慣づける。多くの情報の中から必要な情報にラインを引き、問題に取り組む。	
3年	具体的な課題		原因として考えられること
	「数と計算」 「長さ・かさ」		既習事項を使い、早く正確に正しい解答するよう意識させる。
	課題解決のための方策	モジュールや家庭学習で繰り返し計算や文章題に取り組み、すぐに評価し間違いを直す。また長さやかさの量的概念をもたせる。	
4年	具体的な課題		原因として考えられること
	「2けたのかけ算、小数の計算」 「倍の計算」		棒グラフの読み取りから、基準量と比較量を正しく捉えられていない。
	課題解決のための方策	モジュールなどの時間で計算の反復練習をする。倍の計算については、繰り返し練習し、基準量と比較量を意識して取り組む機会単元を横断して設ける。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	「小数の計算」「図形」 「簡単な場合の割合」		位や空位を意識した筆算や割合、長文から必要な情報を読み取ることが難しい。
	課題解決のための方策	モジュールの時間に四則計算を反復練習する。学期に一回は長文の問題に取り組ませ、必要な事項を読み取る練習を繰り返す。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	「図形」「単位量あたりの大きさ」 問題の読み違いや作図、公式の意味理解		長文の問題を読み込み、既習を活用して問題解決することが難しい。
	課題解決のための方策	長めの文章題を確認しながら読み込み、既習をもとに考える時間をモジュールや家庭学習で設ける。	

(2) 次年度の数値目標

各学年、全体の目標値を上回ることを目指す。また、文章題の問題を丁寧に読み、領域では、「思考判断」領域の向上を目指す。

品川区立中延小学校

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

【理科】

(1) 定着状況についての概要

4年生は、前年度の目標値を目指したが、今年度は目標値を下回っており、観点別の定着では基礎も活用も目標値を下回る結果となった。5年生は前年度基礎向上を目指していたが、全体の目標値基礎活用ともに下回った。6年生は前年度から基礎向上を目指して取り組んだ結果、全ての項目で目標値を上回ることができた。

(2) 学年ごとの分析

4 年	具体的な課題	原因として考えられること
	特に、「植物の育ち方」「昆虫の育ち方」「光の性質」また、後半の問題と記述問題に課題が見られる。	読解力、文章力が低いために、問題の読み取りが難しい。また、4科目ということもあり、集中力が続かない。理科の基礎知識が足りていないのか、集中力が続かなかったのか判断が難しい。
	課題解決のための 方策	<p>【読解力、文章力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下線が引かれた言葉には注意をして読むことや重要な言葉に着目できるよう、国語科で読みの力を高める。 <p>【基礎学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科の用語を使って、説明したり書いたりする活動を積極的に取り入れる。
5 年	具体的な課題	原因として考えられること
	「動物のからだのつくりと運動」「物の体積と温度」「物のあたたまり方」、記述問題に課題がある。	問題文をきちんと読んでいなかったり、理解ができなかったりしている。また、必要な情報の読み取りが不十分である。
	課題解決のための 方策	<p>【読解力・文章力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下線が引かれた言葉には注意をして読むことや重要な言葉に着目できるよう、国語科で読みの力を高める。 <p>【基礎学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科の用語を使って、説明したり書いたりする活動を積極的に取り入れる。 ・ 星座早見盤など、実際に操作をしたり体験したりする。
6 年	具体的な課題	原因として考えられること
	「天気の変化」に課題がある。特に理科の用語に関する問題の正答率に課題がある。	理科の用語が定着していない。問題文の読み取りが不十分である。
	課題解決のための 方策	<p>【読解力・文章力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を最初から最後まで読むことや重要な言葉に着目できるよう、国語科で読みの力を高める。 <p>【基礎学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科の用語を使って、説明したり書いたりする活動を積極的に取り入れる。 ・ 結果を求めるために計算が必要になってくるので、算数科で習熟を図る。

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値を目指す。4年生は記述式の問題で目標値を、5年生は短答式の問題で目標値を目指す。

品川区立中延小学校

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組
【英語】

(1) 定着状況についての概要

英語科は6年生のみの実施である。基礎、活用ともに校内平均正答率が目標値を上回っている。しかし、達成値を全国平均と比較すると下回っている。

(2) 学年ごとの分析

6年	具体的な課題	原因として考えられること
	領域別に見ると、「書くこと」に課題がある。特に、英文の完成では、例文や資料を参考にしながら、英作文を書くことに課題がある。「He や She、職業」の言葉の意味や使い方に理解不足が見られる。自分の考えを英語で書き表すことに苦手意識が見られる。	小文字を書くことが苦手な児童が見られる。また、英単語を書くことに慣れていないことも原因と考えられる。設問の意図が分からず、設問に沿って答えられないことや、自分の考えを書き表す経験が少なかったことが原因として考えられる。
	課題解決のための方策	JTE の発音を聞き、何を言っているのか聞き取れるように活動に取り組む。また、自分のあこがれの職業など、その資料にある語句を使ってベースラインに沿って書けるように繰り返し練習に取り組ませる。自分の考えを書き表し、発表する機会を設ける。

(3) 次年度の数値目標

今年度の目標値を目指す。